

を示してくれるブラジル式にもようやく司法の手がまわるようになり(今までは金で司法の連中でも買えたのである)、ブラジルの手垢のついていない連中がようやく、これではいかんと気が付いたようで、やっとここまで来たかと感無量です。

小生がブラジルに来る2年前の1964年に軍によるクーデターで汚職政治家は追放され議会は閉鎖され、1968年からブラジルの奇跡が始まり5年ほど好況を国民が体験し、外国から「明日の国ブラジル」などとおだてられ外国から外貨建てドルを借りまくり、能力限界以上の借金国になって1982年ついに国の破産を宣言する事態に至りました。1980年代今頃は失われた80年代と呼ばれる不況とインフレの時代を過ごす事になるわけです。元々軍事政権も皆ブラジル人、誰が政権を取ってもお金で買われてしまう、隣のアルゼンチン、ベネズエラも同様、失政による国家の衰退であるが、残念ながら、その指導者を選んだのは偉大なる? 国民であることも事実で、ここで教育がいかに大切か!

今年はブラジルの大統領選挙の話題で染まっていますが、本命と言われる候補者が無い中で、国の成熟度と良識が試される良い機会ではと思っています。

小生の義父は本庄出身でしたが(こちきたブラジル!)と怒っては息子どもを困らせ、昔の話ですが嘆いて亡くなりました。

現在のブラジルの人口は2億700万人、小生がブラジルに着いた頃は日本の人口は9千340万人ブラジルは7千万人を切れていて、食料も豊富で今でも思いだしますが、レストランに行くと大皿から肉が10センチもはみ出していたもんです。今でははみ出していたのが皿の中、味も匂いも今頃の肉と比べものにならない美味しいものでした。

歳のせいかなぁと言う間に一年が過ぎますが、新年早々冥土の話で恐縮ですが一休さん、(門松は冥土の旅の一里塚めでたくもあり、めでたくもなし)今年も大いに目出度いことがありますようにブラジルよりご多幸をお祈り申し上げます。】

また、会報「金砂」の縁で田口寛二から手紙をいただきました。

【勝己さん お元気ですか 伊藤氏より東京秋工工会報を頂きました。VOL25「私の秋田弁ライフ」、秋田弁思い出しながら面白く読ませていただきました。ガモコは50年ぶりに思い出しました。アルミ製のボートと船の免許証も取って釣りバカをやっていましたが大西洋波高しで昨年は二度程の釣りでおしまいでした。勝己さんの趣味の多さとタフネスにはビックリです。船の仕事をしている関係漁師が魚やエビを持って来てくれます、有難くいただいて、段々とヒヤミコギになって海に中々行かなくなり、今年には頑張って行こうと思っています。お元気で益々のご活躍をお祈り申し上げます。】

ブラジル秋田県人会と東京秋工工会が繋ぐ縁! それぞれがそれぞれの立場と環境で故郷を思い、集い、語り、遊び、喜び、楽しみ、悲しみ、人生を豊かに育む人と人の縁!! これからも東京秋工工会を中心とした様々な人と人の出会いに感謝し活動を応援したいと思います。

田口寛二さんには「昨年10月に同級会を一泊で東京で行いました。秋田から13人、東京6人、名古屋1人の20人で浅草、屋形船、スカイツリー、国会議事堂見学(富樫議員秋工出身)、寿司三昧(暮れのマグロ

の高値セリで有名)で盛り上がり、77歳の喜寿のお祝いには秋田でヤルベー!! と再会を約束して乾杯しました。喜寿の段取りは嵯峨修三と俺が幹事で計画しますので是非参加してください。しかし健康でなければこれもおかしいですね! とにかく体に注意して秋田に来てください! メールも送りましたが届いたかわかりませんので手紙書きました。」と連絡しましたが、これからあと2年、自分の体と頭(ボケ)が持つかどうか? 神のみぞ知るです.....

もう一つ東京秋工工会での出会いを紹介します。会報「金砂」の副編集長船木一美(S48M)さんは秋高連・ふるさと応援団等の広報誌も担当していますが、このほど「秋田ひえばなの会」から首都圏で力強く生きてきたふるさとをこよなく愛する秋田人の文集として『首都圏在住秋田人100人の物語』が発行されました。その編集スタッフ兼制作責任者となった船木さんから、

我が秋田工業に以下の10名の寄稿の依頼がありました。三平俊悦・生駒茂・船木一美・佐々木進・赤川均・山形俊夫・加賀谷健治・嵯峨良平・佐藤弘・地主勝己。100人それぞれが、ふるさとへの想いを語り今までの生き様を振り返り、読んでいるうちに胸にこみあげて来るものがあります。ぜひお買い求め願ひ涙を流してください! ちなみに私の表題は「ありがとう! ふるさと豊葎」とし、同級生の修三に一冊送りました。修三からは「なんと勝己オメダバ大したものだ! おらほの自慢だ! 皆にコピーして渡しておいだがら! 」と電話こきたもの、俺もホジナシだもの、うれしがたな! コノバガケ! サイサイ!



首都圏在住秋田人 100人の物語 表紙



春の豊葎風景写真/首都圏在住秋田人 100人の物語の序章に掲載 (撮影: 地主)

◆ 記事

地主 勝己 (昭和37年土木科卒)

日本一小さな葬儀社ですが、
日本一小回りの利く、
総合葬儀社です。

お客様の立場で考え、
お気持ちを理解し、
想像力と創造力を働かせ、

お客様にとって、
最善のご提案をいたします。

【葬儀に関する業務】・葬儀施・終活安心設計・県外喪主サポート
【管理・運営業務】・寺院運営サポート・老人ホーム運営サポート・わかばホール管理、運営
【契約・提案】・死後事務委任契約・遺言、民事信託・相続、事業承継
・不動産売買・空家管理・地域活性
【お墓・法要】・永代供養墓・お墓掃除、お墓参り代行・法要手配

株式会社東日本メモリアルサービス

代表取締役 成田 竜也 (鷹巣高校出身)

企画アドバイザー 船木 一美 (S48M)

本社：〒116-0003 東京都荒川区南千住6-30-12-203
北秋田事務所：〒018-3315 秋田県北秋田市宮前町11-6
わかばホール：〒116-0003 東京都荒川区南千住5-16-19
対応エリア：東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・秋田県

フリーダイヤル: 0120-565-594 (24時間365日)
TEL: 03-5615-3095 FAX: 03-5615-3096
メールアドレス: info@memorialservice.jp

※お気軽にご相談ください。